

正倉院 THE SHOW

感じる。いま、ここにある奇跡

大阪会場

2025年
6月14日(土)～8月24日(日)

大阪歴史博物館

東京会場

2025年
9月20日(土)～11月9日(日)

上野の森美術館



「正倉院という物語」を歩き、1300年の奇跡に触れる。

世界的に稀少な品々が約1300年の時を経てなお良好な状態で伝えられている正倉院とその宝物の奇跡を、これまでとは異なる新しいアプローチで「感じる」「楽しむ」展示イベント「正倉院 THE SHOW」が、宮内庁正倉院事務所監修のもと、大阪・関西万博を機にスタートします。

今なお色あせることなく、輝きを放つ宝物——それは時代を超え、人の心と手を通じて、脈々と受け継がれてきました。本展では、「愛 美 紡ぐ」の3つの視点から、正倉院1300年の奇跡の物語を紐解きます。

最新のデジタル手法を駆使した展示を行うのも本展ならでは。宝物を360度からスキャンして取得された高精細な3Dデジタルデータに演出を施した展示を行い、宝物の細部や質感をリアルに感じていただきます。また、正倉院事務所が研究・製作を進めてきた「再現模造」を映像・音楽・照明との組み合わせで展示することにより、正倉院との新たな出会いを提供します。

さらに、ファッションデザイナーの篠原ともえさんをはじめとする現代アーティストが正倉院からインスピレーションを得て生み出した新作も紹介します。

会場内は、フォトスポットに限らず写真撮影およびSNS投稿が可能。気鋭のクリエイター陣が言葉や空間の演出を手がけた、まさにショーとしての華々しさに彩られた展示イベントです。

「正倉院 THE SHOW」実行委員会

愛

愛のかたち、愛のちから。

正倉院の物語は、光明皇后の想いから始まる。聖武天皇への愛、そして、この国に生きる人々への愛。その願いは、時を超えて、今を生きる私たちの心をも揺さぶる。

美

美は、時として言葉以上に語る。

シルクロードを経て集められた品々は、今もなお、唯一無二の輝きを放っている。正倉院の宝物が持つ美しさは、1300年の時を超えて私たちの心を魅了し続ける。

紡ぐ

受け継がれる意思、紡がれる未来。

正倉院の守り人たちの「残したい」という想いは、時代とともに、担い手を変えながら、今日まで途切れることなく続いている。この連鎖は、未来へとつながっていく。

監修者ごあいさつ

この度、主催者をはじめとする関係各位のご尽力によって、「正倉院 THE SHOW」が開催の運びとなりました。奈良、東大寺旧境内に立つ正倉院は、9000件もの宝物を1300年近く地上で守り伝えた、まさに“奇跡の宝庫”です。

奈良時代以来の歴史的な経緯に基づいて宝物自体の公開は限定的にせざるを得ません。また、それが限定的であるがゆえに、オーソドックスな展示の枠からはみ出す、冒険的な取り組みにまで着手する機会もありませんでした。

今回の展覧会は、最新のデジタル技術を駆使して宝物に新たな光を当て、これまで気づかなかった魅力を発見していただくという、極めて意欲的な試みです。ご観覧の皆様には、宝物の世界を存分に楽しみながら、その価値、皇室のかけがえなさや伝来を支えた人々の献身にも思いを致していただければ、と思います。

宮内庁正倉院事務所長
いいだ たけひこ
飯田剛彦





模造 紅牙撥鎌尺(こうげばちるのしゃく)

展示の見どころ ①

最新のテクノロジーを用いた高精細な3Dデジタルデータで 宝物の細部や質感をリアルに紹介します。

宝物を360度からスキャンして取得された高精細な3Dデジタルデータに演出を加えた映像を大スクリーンで上映。肉眼では捉えにくい宝物の細部や質感も詳細に紹介し、没入感のある空間で宝物美の世界を深く味わっていただきます。

「3Dデジタルデータ」とは

正倉院宝物の「3Dデジタルデータ」は、最新の3次元計測や高精細写真撮影、質感取得技術を駆使して作成された精緻なデジタルアーカイブです。宮内庁正倉院事務所とTOPPAN株式会社は、2019年から螺鈿紫檀五絃琵琶をはじめとする宝物のデジタルアーカイブを実施。本展では選りすぐりの宝物の3Dデジタルデータを活用し、通常の展示室の環境では肉眼で捉えづらい細部や質感までも克明に再現し、単眼鏡を使わずとも宝物に包まれるような臨場感あふれる鑑賞体験を提供します。



3Dデジタルデータ 漆金薄絵盤(うるしきんぱくえのばん)

撮影および計測：宮内庁正倉院事務所・TOPPAN株式会社

展示の見どころ ②

「再現模造」を最新のデジタル制御による 映像・音楽・照明との組み合わせで展示します。

宮内庁正倉院事務所が研究・製作を手がける再現模造からは、宝物が高度な技術を駆使し、精緻^{せいち}に作られていることがよくわかります。再現模造展はこれまでに何度も開催されていますが、本展では最新のデジタル制御による映像・音楽・照明との組み合わせで再現模造を展示することにより、新たな鑑賞体験を提供します。

「再現模造」とは

正倉院宝物をもうひとつ作ること——それが正倉院事務所の目指す再現模造です。1972年に開始された模造事業では、単に見た目を似せるのではなく、各種の分析装置や光学機器を駆使して当時の素材や技法を探り、時に試作を繰り返しながら、宝物本来の姿を再現することに努めています。現在までに作られた再現模造は50件。今回はそのなかから聖武天皇ご遺愛の琵琶や肘つきなど、たぐいまれな出来映えを示す宝物の再現模造が出陳されます。

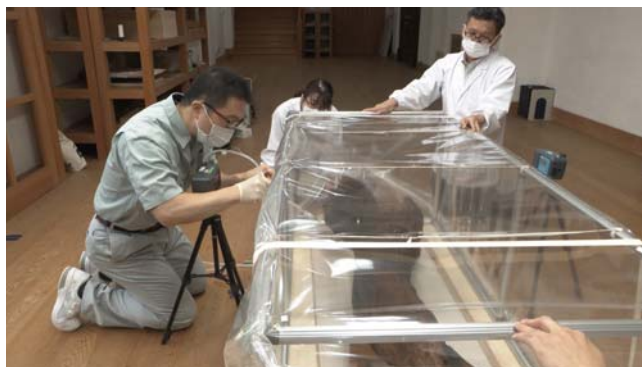


模造 螺鈿紫檀五絃琵琶(らでんしたんのごげんびわ)



織田信長が熱望した香木「蘭奢待」を 科学的に分析して香りを忠実に再現。天下人を魅了した 正倉院宝物の香りを展示会場で初公開します。

謎に包まれてきた「蘭奢待」の香りについて、正倉院事務所では2024年度から、高砂香料工業株式会社の協力のもと、正倉院宝物「蘭奢待」の脱落片^{だつらくへん}を利用し、成分分析などの詳しい調査を実施。科学調査の結果と、香りを嗅いだ調香師の研ぎ澄まされた感覚によって、現代に蘭奢待の香りがよみがえりました。会場では、ガラスボールの中に閉じ込めて香りを展示、来場者に実際に香りを嗅いでいただくことができます。



高砂香料工業による蘭奢待の香りの調査

「蘭奢待」とは

宝物名は「黄熟香」。長さ156.0cm、重さ11.6kg。東南アジアに分布するジンチョウゲ科アクイラリア属の木の切り株などに樹脂や精油が沈着してできた香木で、いわゆる「沈香」(じんこう)。「沈香」の中でも、正倉院の蘭奢待は特に名香とされてきた。



正倉院宝物 黄熟香(蘭奢待)

※会場にはレプリカが展示されます。

気鋭のクリエイター陣が言葉・音楽・空間を演出、 宝物の新たな楽しみ方を提案します。

コピーライターの梅田悟司氏^{うめだ さとし}が紡ぎ出した詩的な文章が「物語」を彩ります。空間デザイン、グラフィックなども気鋭のクリエイター陣が担当。宝物の美を活かし、物語世界に浸れる演出に取り組めます。

日本国内の展覧会で初!ノーベル賞の技術を応用し、 映像をより鮮明に、美しく輝かせる最新のスクリーン塗料を導入

映像演出における新たな試みとして、2023年にノーベル化学賞を受賞した「量子ドット (Quantum Dot)」の研究をベースに、世界で初めてナノ技術を活用して開発されたスクリーン塗料「Immersive Magic Wall (販売元：株式会社イマーシブ)」を日本国内の展覧会として初めて導入します。

量子ドット (Quantum Dot) は、非常に小さな半導体粒子で光を滞留させ発光する性質を持っています。その性質を応用したこのスクリーン塗料を壁面に塗布することで、色彩のコントラストが強調され、LED・液晶画面にも匹敵するハイコントラストなプロジェクター投影を実現します。*

会場では、高さ約4m、幅約20mの巨大スクリーンいっぱいに、正倉院宝物の3D高精細映像を映し出しますが、この塗料を採用したことで、光と色の再現性が高まり、美しい宝物の輝きをより美しく、より自然で奥行きある映像でご覧いただけます。ぜひ、その質感の違いをご覧ください。

※プロジェクター投影面の発光輝度、空間照度環境により効果は変わります。



Immersive Magic Wall 施工前
※通常の白壁

Immersive Magic Wall 施工後

©Immersive Inc.

現代アーティストが正倉院からインスピレーションを受けて手がけた新作もお披露目します。

現代でも色あせることのない正倉院宝物の美が、アーティストとのコラボレーションにより、新たな魅力を創出します。幅広いジャンルで活躍する現代アーティストが、正倉院にインスピレーションを受けて制作した新作を展示します。

コラボレーションアーティスト

ファッション × 宝物

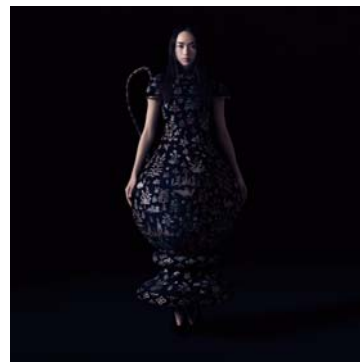


篠原ともえさん (しのはら・ともえ)
デザイナー・アーティスト

1979年東京都生まれ。文化女子大学短期大学部服飾学科卒業。95年に歌手デビュー。現在は、デザイナーとして多方面で制作活動を行う。2020年、アートディレクターの夫、池澤樹氏とともに「STUDEO」を設立。22年、デザインを手がけた革きものがニューヨークADC賞の2部門で受賞を果たし、大きな話題に。

自然と生命への賛歌を纏う

職人技術の粋を集めたベルシア風の花瓶「漆胡瓶」。動植物、昆虫など生き生きと繊細に刻まれた文様をなぞり、現代のファッションとしてよみがえらせました。



音楽 × 正倉院楽器



亀田誠治さん (かめだ・せいじ)
音楽プロデューサー ペーシスト

1964年アメリカ・ニューヨーク生まれ。GLAY、椎名林檎、スピッツ、平井堅、いきものがかりほか多くのアーティストのプロデュースやアレンジを手がける。2007年、15年の日本レコード大賞にて編曲賞、21年の映画「糸」で日本アカデミー賞優秀音楽賞を受賞。2019年よりジャンルを超えて音楽体験ができるフリーイベント「日比谷音楽祭」の実行委員長を務めるなど様々な形で音楽の魅力を伝えている。

正倉院を未来に繋ぐ架け橋に

昭和20～30年代に録音された琵琶や尺八などの宝物の音源。そこにピアノやベースといった現代の音色を融合させ、時を超えて響く、新たなメロディーが誕生しました。



写真 × 正倉院正倉



瀧本幹也さん (たきもと・みきや)
写真家

1974年愛知県生まれ。ポートレート、静物など、様々な被写体と向き合う中培われた経験と技術のもと、独自の視点で捉えた作品は国内外で高い評価を得る。代表作に、『LUMIERE』、『PRIÈRE』、『LAND SPACE』などがあり、是枝裕和監督の映画「そして父になる」、「海街diary」、Netflixシリーズ「阿修羅のごとく」では撮影監督を務める。

巨大な立体となり、空間に浮かぶ

正倉院正倉の見たことのない表情を捉えた作品群。その荘厳な姿を捉えた写真は、巨大な立体として展示空間に現れ、建築そのもののようにつまみま。



陶芸 × 文様美



亀江道子さん (かめえ・みちこ)
陶芸家・絵付師

1978年神奈川県生まれ。京都伝統工芸専門学校に学び、卒業後はヨーロッパ、アジア各地に移住し、細密画の腕を磨く。精緻な描線と色遣いにこだわる京薩摩焼の技法を用い、自然の花々を緻密に表現する作品を制作する。日本橋高島屋での個展をはじめとして、銀座高島屋書店やAsia Hotel Art Fair HongKong、KOGEI Art Fair Kanazawaなどの企画展やアートフェアに参加。Paperblanksのカバーデザインなども手がける。

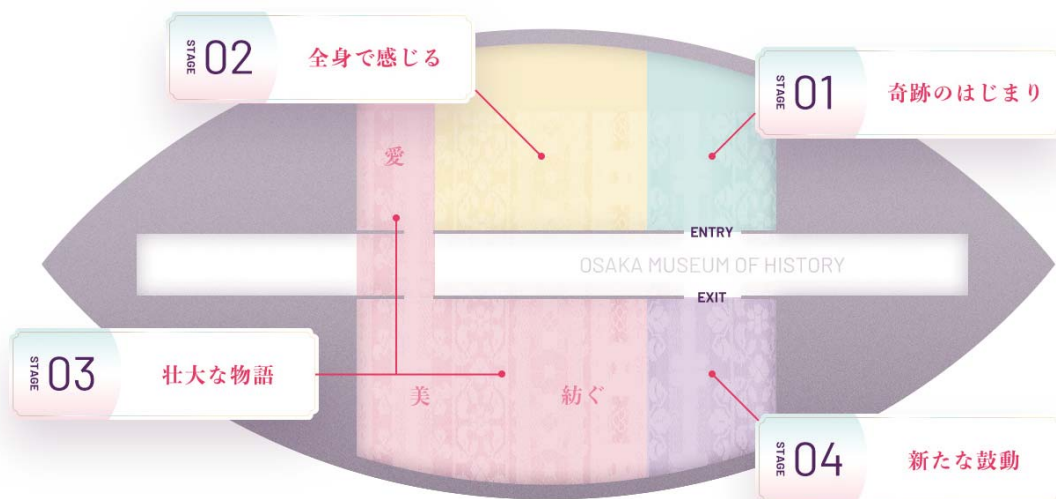
1300年前の物語から紡ぐ

見たことのない色彩や素材、文様に彩られていたであろう1300年前の世界。その物語を想像し、当時には存在しなかったデジタルと、筆というアナログな道具で文様を紡ぎました。



展示プラン

＜大阪会場＞ ※東京会場の展示プランは後日発表します。



STAGE 01 奇跡のはじまり

宝物誕生の背景にある聖武天皇と光明皇后のエピソードを紹介。「正倉院という物語」に踏み出していただきます。

STAGE 02 全身で感じる

「再現模造」を映像・音楽・照明と組み合わせ、新しい形で展示します。大型スクリーンでは3Dデジタル技術を駆使した臨場感あふれる映像を通じて、正倉院宝物の世界を体感いただけます。

映像は下①～③で構成されます。映像①と②の詳細は、7～8頁で紹介しています。

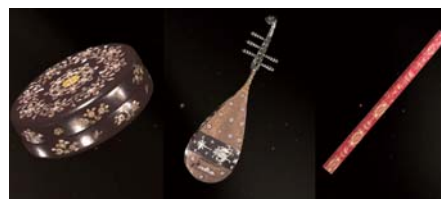
※上映時間：17分（繰り返し上映）



映像① ストーリー映像 (7分45秒)



映像② デジタル宝物映像 (7分20秒)



映像③ 模造対象宝物映像 (2分)

るりのつき

「瑠璃杯」レプリカ完成

輪飾りが付いたコバルトブルーのグラスを、銀製の台脚で支える「瑠璃杯^{るりのつき}」。グラス部分は西方で作られ、台脚は中国で付けられた、東西の文化の融合を示す品とされています。正倉院宝物の実物は、グラスを載せる「受け座^{めつき}」が明治時代の修理で当初のものから変わっており、また、台脚の銀の上に施されている金の鍍金がほとんど見えなくなっています。今回はレプリカ作成にあたって、後に発見された受け座の形を模して、台脚を製作。さらに、台脚の全体に金鍍金をほどこし、1300年前の姿を表現しました。



金鍍金(きんめつき)を
ほどこした台脚



完成したレプリカ「瑠璃杯」

STAGE 03 壮大な物語

「愛 美 紡ぐ」の3つをテーマに、「正倉院という物語」を展開していきます。グラフィックのほか映像や再現模造の展示により、物語を掘り下げます。

▽大仏開眼会

聖武天皇と光明皇后は仏教による国づくりを目指し、東大寺の大仏を建立しました。延べ250万人もの人々が関わったという大事業の模様を紹介します。

▽勅封

正倉院宝庫は天皇の許可なしには開かれませんが、会場では「勅封」の扉を再現し、1250年以上もの間、宝物をきれいな状態で守り伝えてきた秘密に迫ります。

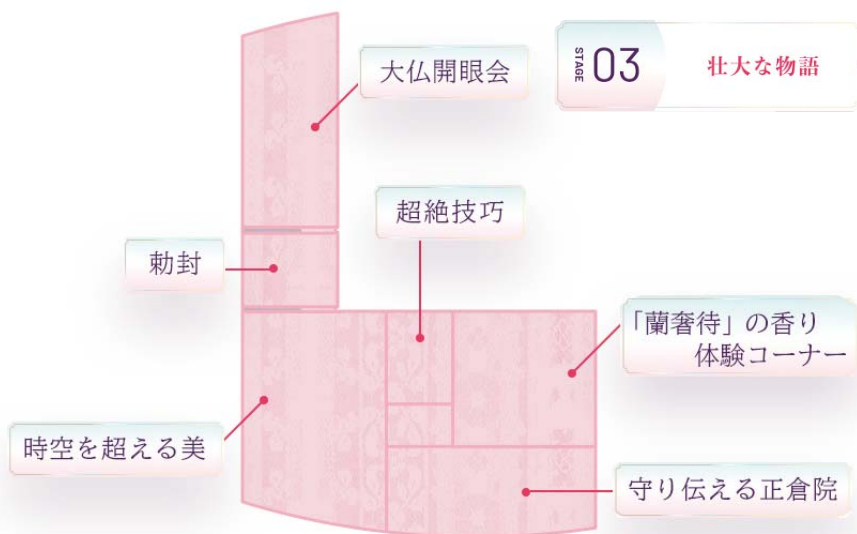


▽時空を超える美

正倉院の宝物には、ペルシャ、中国、インドなど様々な文化の要素が溶け込んだ、東西文化の融合が見られます。その奇跡の美は、時代を超え、今もオーラを放ちます。

▽超絶技巧

正倉院の美を生み出している要素の一つが数々の高度な技法です。「螺鈿」「木画」「撥鏤」など、宝物に用いられている技法を、映像を交えて紹介します。



▽守り伝える正倉院

宝物の点検や調査、修理、模造製作などを担う宮内庁正倉院事務所の活動、また歴代の皇后に受け継がれている「御養蚕」を紹介し、宝物を守り伝える取り組みに迫ります。

▽「蘭奢待」の香り体験コーナー

最新の調査研究の成果をもとに「蘭奢待」の香りがよみがえりました。ここでは香料を入れたガラス容器を約20個並べ、カバーを取って香りを楽しんでいただきます。

STAGE 04 新たな鼓動

正倉院や宝物の美、音色などからインスピレーションを受け、現代アーティストが新たに創造した服飾品、工芸品、楽曲、写真作品などを紹介します。



3Dデジタルデータ 漆金薄絵盤(うるしきんぱくえのばん)
撮影および計測：宮内庁正倉院事務所・TOPPAN株式会社

ストーリー映像



第1章 | 時を超える蔵 — 正倉院正倉 —

1300年の歳月を経て、静かに佇む正倉院。その中に納められた宝物は、時代を超えて今に語りかけます。圧倒的な美しさとともに、秘められた物語が始まります。

Chapter 1: The Timeless Repository — The Shosoin Repository

After 1,300 years of quiet presence, the Shosoin still stands with dignity. The treasures it holds speak across time, revealing hidden stories alongside their overwhelming beauty.



第2章 | 甦る珠玉の逸品たち

正倉院宝物の選りすぐられた名品が登場。鏡の中に入り込むような没入感とともに、その細かな美を体感します。多様な文化の交差点としての正倉院宝物をご紹介します。

Chapter 2: Shosoin Masterpieces Collection

Masterpieces carefully selected from the Shosoin Treasures are reimagined through 3D visuals. Experience their exquisite detail with immersive depth—like stepping into a mirror. Discover the treasures of the Shosoin as a crossroads of diverse cultures.



第3章 | 大仏開眼会

奈良時代、東大寺大仏の開眼に際して行われた壮大な式典。数万人が集ったかつてないスケールの歴史的イベントを、色彩豊かな再現映像でご体感ください。

Chapter 3: The Eye-Opening Ceremony of the Great Buddha

In the Nara period, a grand ceremony was held to mark the consecration of the Great Buddha of Tōdaiji. Tens of thousands gathered for this unprecedented historical event. Experience its scale and splendor through vividly recreated visuals.

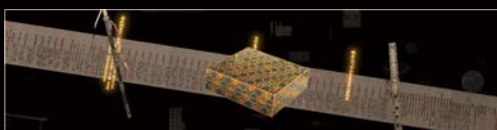


第4章 | 聖武天皇と光明皇后の絆

正倉院宝物の原点は、光明皇后が東大寺大仏にささげた聖武天皇のご遺愛品にあります。ふたりの絆が生んだ品々には、想いと祈りが込められています。静かな感動とともに、永遠の愛の形に触れます。

Chapter 4: The Bond Between Emperor Shōmu and Empress Kōmyō

The origins of the Shosoin Treasures trace back to Empress Kōmyō's offering of Emperor's personal belongings to the Great Buddha. Each treasure conveys their deep emotion and heartfelt prayers. With quiet reverence, we encounter an expression of eternal love.



第5章 | 国家珍宝帳

全長14mにも及ぶ国家珍宝帳。600点以上の宝物の目録とともに、光明皇后が聖武天皇へ捧げた深い想いが記されています。

Chapter 5: Record of the Nation's Rare Treasures

The *Kokka chinpō-chō*, a scroll extending 14 meters in length, is an original catalog of more than 600 treasures included in the offering by Empress Kōmyō. The record is accompanied by a statement of Empress Kōmyō's profound devotion to Emperor Shōmu.



第6章 | 正倉院「美」の世界

色褪せぬ美と技。正倉院宝物に込められた美意識は、現代の私たちにも響き続けます。幻想的な映像で紡がれる「美」の宇宙をお楽しみください。

Chapter 6: The Aesthetic World of the Shosoin

Timeless beauty and craftsmanship. The aesthetic sensibilities embodied in the Shosoin Treasures continue to resonate with us today. Immerse yourself in a dreamlike visual journey through an universe of beauty.



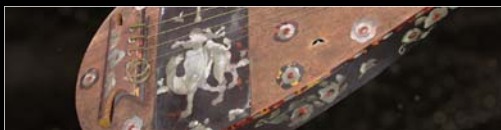
第7章 | エピローグ

正倉院の宝物は、1300年の時を超えて今も生きています。その輝きは、これからの時代にも永遠に受け継がれていくでしょう。あなたも、この物語の証人に——。

Chapter 7: Epilogue

The Shosoin Treasures have lived on through 1,300 years of history. Their radiance will continue to be passed down for generations to come. Now, you too become a witness to this enduring story.

デジタル宝物映像



第1章 | 螺鈿紫檀五絃琵琶

聖武天皇がその膝に抱いたともされる名品。華やかな螺鈿の文様に身を委ねながら、人物や動植物の細部まで生き生きと表現された巧みさにもご注目ください。

Chapter 1: Red Sandalwood Five-String Lute (*Biwa*) with Mother-of-Pearl Decoration

This is said to have been one of Emperor Shōmu's favored objects. The eye is drawn to the magnificent mother-of-pearl motifs, and the lively detail with which the figures, plants, and animals are depicted.



第2章 | 漆胡瓶

およそ2.7リットル容量のペルシア風水差し。全面を広々とした草原に見立て、そこに動物たちがのびやかに遊んでいます。

Chapter 2: Persian-style Lacquered Ewer with Birds, Beasts, and Flowers

This Persian-style water container holds approximately 2.7 liters. The surface features scenes of animals frolicking in a spacious grassland.



第3章 | 漆金薄絵盤 乙

大仏に供える香炉を置く、蓮の花をかたどった台です。32枚の蓮弁には、花鳥や迦陵頻迦が極彩色で描かれています。

Chapter 3: Lacquered Pedestal for Incense Burner with Gold Leaf and Painting

This pedestal was used to offer incense to the Great Buddha. The thirty-two lotus petals that form the shape are adorned with brilliantly colored images of flowers, birds, and the mythical winged *kalavinka*.



第4章 | 螺鈿箱／紺玉帯（再現）

再現模造のデジタルアーカイブを用いて、現存する宝物の姿を再現しました。螺鈿装飾が施された専用の箱から、高位の人にのみ許されたラピスラズリで飾られた帯（一部欠矢）がスクリーンに飛び出します。

Chapter 4: Round Box with Mother-of-Pearl Decoration; Leather Belt with Lapis Lazuli Decoration (Reproduction with reconstructed areas)

Using digital archives of replicas, we have recreated these treasures based on their current form. From a special box decorated with mother-of-pearl, a digitally-reconstructed belt adorned with lapis lazuli, worn only by people of high rank, emerges onto the screen.



第5章 | 木面紫檀碁局／紅牙撥鏤碁子／紺牙撥鏤碁子

華やかな装飾が施された聖武天皇遺愛の碁盤と付属の象牙製の碁石です。象牙を使って表現された人物、象、ラクダなど異国情緒あふれる木画が盤の側面を飾ります。

Chapter 5: Red Sandalwood Game Board for Go with Marquetry; Red-stained and Blue-stained Ivory Go Pieces with *Bachiru* Engraved Design

This brilliantly decorated go board and accompanying game pieces were cherished by Emperor Shōmu. Wood and ivory marquetry was used to create the designs of exotic people and animals, such as elephants and camels, that adorn the sides of the board.

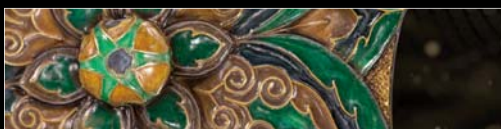


第6章 | 円鏡 平螺鈿背 第11号

螺鈿で花鳥文があらわれ、文様の間には青いラピスラズリや水色のトルコ石の細片がちりばめられた豪華な装飾鏡です。可愛い表情をした4羽の鳥も、ぜひ見つけてみてください。

Chapter 6: Round Bronze Mirror Decorated on the Back with Mother-of-Pearl Inlay (No. 11)

This luxurious mirror features bird and flower motifs made from mother-of-pearl, with small fragments of blue lapis lazuli and pale turquoise inlaid between the motifs. Four charming birds sit waiting for you to find them in the design.



第7章 | 十二稜鏡 黄金瑠璃鈿背 第6号

正倉院に伝わる唯一の七宝で飾られた鏡です。鈕（つまみ）の紐を通す孔から内部を覗くと、鏡体を作る際に回転させた痕や、十二稜形に割り付けるためにつけたと思われる線が確認できます。

Chapter 7: Twelve-Lobed Silver Mirror Decorated on the Back with Gold and Cloisonné Enamel (No. 6)

This is the only mirror in the Shosoin decorated with cloisonné. Traces of rotation marks caused when the mirror body was made are visible in the hole through which the string passes on the knob; lines that appear to have been made to divide it into a twelve-lobed shape are also present.



第8章 | 金銀鈿荘唐大刀

外装に豪華な装飾が施された儀式用の大刀。金具はすべてが銀製に鍍金したもので、色ガラスと伏彩色を施した水晶の玉が要所に嵌め込まれています。

Chapter 8: Decorative *Karatachi*-Style Sword with Gold, Silver, and Glass Decoration

This ceremonial sword has an ornately decorated exterior. The metal fittings are gilt silver, and beads of crystal with paintings on the underside (in the *fusezashiki* technique) and colored glass are inlaid in certain areas.

オフィシャルサポーター

幅広い分野で活躍する俳優の鈴木福さんが本展のオフィシャルサポーターに決定しました！
会場での撮影をもとに、正倉院の魅力を鈴木福さんの目線で語っていただく読売テレビの特別番組も予定されています。

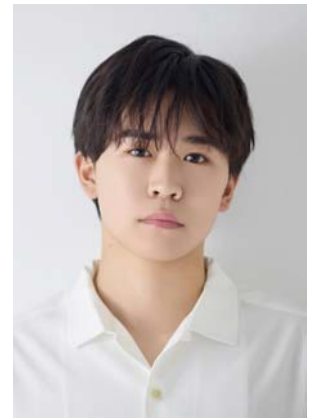
鈴木福さんからのメッセージ

私自身、小さな頃から神社仏閣を訪ね、その場所に所蔵される宝物などを拝観することが好きでした。

私の母、祖母は箏、祖父、叔父は尺八の演奏家で、父は和楽器問屋の職人と、生まれた時から和楽器の音色を聞いて育ち、現在は尺八の稽古に励んだり、和楽器の魅力を伝えるラジオ番組のパーソナリティーをつとめたりと、日々、日本の伝統文化に囲まれて生きています。

祖父母が主宰する和楽器オーケストラ「むつのを」は、正倉院にも保存されている和琴の6弦、6つの緒に由来しています。私自身も幼い頃から演奏を聴き、出演もしているオーケストラの名のもととなった和琴を守り、伝えられている正倉院のオフィシャルサポーターをさせていただけること、ご縁だと感じ、嬉しくなりました。

最新技術で読み解かれる正倉院の魅力を全身で体感するのが楽しみです！



【鈴木福 プロフィール】

2004年6月17日生まれ、東京都出身。特技は箏・けん玉、趣味は野球。1歳のとき、NHK教育番組でデビュー、2011年にTVドラマ「マルモのおきて」に出演し、人気を博し以降、映画、TV、舞台、CMなどで活躍。近年はミュージカルや情報番組のコメントーターなど新たなジャンルにも活動の幅を広げている。

● 読売テレビ 特別番組のご案内

※番組タイトル：鈴木福&松嶋尚美の「正倉院 THE SHOW」(仮題)

※内容：オフィシャルサポーターの鈴木福さんと歴史好きの“歴女”松嶋尚美さんが展覧会の魅力と正倉院の奇跡の物語を楽しく紹介する魅力発見バラエティ。

※放送日：7月5日(土)5:25~5:55 / 7月25日(金)10:55~11:25

音声ガイド

人気作品のキャラクターを多く演じている声優の神谷浩史さんが音声ガイドナビゲーターを務めます。正倉院事務所研究員による特別解説を交えながら、神谷さんが「旅人」になり、正倉院をめぐる時を超えた「ものがたり」と一緒に旅します。
本展にご観覧の方は、ご自身のスマートフォンで音声ガイドを自由にご視聴いただけます。展示とあわせて、ぜひ音声ガイドもお楽しみください。

神谷浩史さんからのメッセージ

「どう伝えたら皆さんに伝わりやすいかな？」と考えながら自宅でリハーサルを重ねて本番に臨みました。今回の物語(ガイド原稿)も1300年もの歴史があり非常に興味深く読ませていただきました。文章に込められた思いを乗せたり、色を付けたりすることが声優のアプローチだと思っています。展覧会に関心がある、知識欲があり「成長しよう」という気持ちのある方たちが「聞いて良かった」と感じる音声ガイドにしているつもりですので、聞いていただけたらと思います。



【神谷浩史 プロフィール】

声優、ナレーター、アーティストとして幅広く活躍。主な出演作は、『ONE PIECE』トラファルガー・ロー、『夏目友人帳』シリーズ 夏目貴志、『おそ松さん』松野チョロ松、『進撃の巨人』リヴァイ、『うる星やつら』諸星あたる、『僕のヒーローアカデミア』オール・フォー・ワン(青年期)など。声優アワードでは最多得票賞を5年連続で受賞し殿堂入りを果たす。

● ナビゲーター：神谷浩史(声優) ● 収録時間：約20分 ● 利用料金：無料

※「正倉院 THE SHOW」観覧券ご購入者の方は、音声ガイドを無料でご利用いただけます。

※お客様ご自身のスマートフォン、もしくはタブレットでご利用いただけるガイドです。

※音声ガイド専用機の貸出はございません。

※ガイドのご利用にはデータ通信が必要です。イヤホン、ヘッドホンをご持参ください。

音声ガイド制作・お問い合わせ：(株)アコースティガイド・ジャパン
03-5771-4083 support@acoustiguide.co.jp

鑑賞ワークシート

本展と「やさしいおおかみウルフくん」がコラボレーション。本間あきらさんが描きおろした正倉院宝物とウルフくんのかわいいイラストがいっぱいの鑑賞ワークシートをご用意しました。映像を見ながら取り組むクイズなどもあり、展示をよりお楽しみいただけます。

※鑑賞ワークシートは会場入口に設置しています。

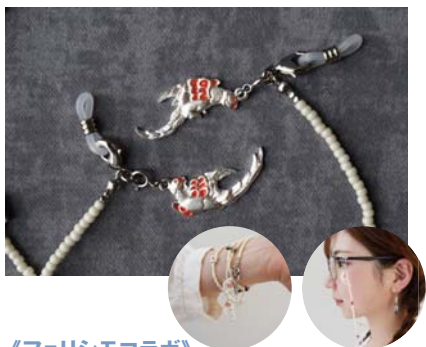


グッズ

本展のオリジナルグッズもバラエティ豊かにご用意しています。通販大手・フェリシモとのコラボレーションでは、「螺鈿箱ラウンドトートバッグ」をはじめ宝物の美しさを日常に取り入れられるファッションやインテリアアイテムが誕生。中川政七商店のロングセラー「かや織ふきん」や、奈良の人気カフェ・くるみの木のビスケット缶なども本展オリジナルパッケージで登場します。「やさしいおかみウルフくん」とのコラボグッズも見逃せません。



《フェリシモコラボ》
螺鈿箱ラウンドトートバッグ 4,620円(税込)



《フェリシモコラボ》
螺鈿紫檀阮咸グラスコード 6,710円(税込)



《亀江道子さんコラボ》
白雲石コースター 各1,320円(税込)



《ウルフくんコラボ》
ステッカー 各770円(税込)



《ウルフくんコラボ》
Tシャツ 5,280円(税込)



《中川政七商店コラボ》
かや織ふきん 770円(税込)



《くるみの木コラボ》
ビスケット缶 2,484円(税込)



クッキー&マシュマロ缶 2,268円(税込)



ステンレスタンブラー
各2,420円(税込)



シェニール織ハンカチタオル
各2,530円(税込)



キーホルダー 各935円(税込)



うつし金蒔絵シール 各1,320円(税込)

※グッズは会期中、本展特設ショップで販売します。 ※品数には限りがございますので、入荷待ち、売り切れの場合はご容赦ください。 ※転売目的の購入や転売行為は固くお断りいたします。
※画像はイメージです。実際の商品とは異なる場合がございます。 ※商品名、価格、デザイン、仕様は変更になる場合があります。 ※商品は発売延期や販売中止になる場合があります。

開催概要

大阪会場

展覧会名：特別展「正倉院 THE SHOW ー感じる。いま、ここにある奇跡ー」

会場：大阪歴史博物館（大阪市中央区）

会期：2025年6月14日（土）～8月24日（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は閉館の30分前まで）

休館日：毎週火曜日（ただし、8月12日[火]は開館）

主催：大阪歴史博物館、「正倉院 THE SHOW」実行委員会
（読売テレビ、読売新聞社、TOPPAN、角川メディアハウス）

監修：宮内庁正倉院事務所

特別協賛：非破壊検査

協賛：きんでん、清水建設、タケモトピアノ

技術協力：エプソン販売

協力：高砂香料工業

後援：公益財団法人大阪観光局、FM802、FM COCOLO

観覧料	当日	団体
大人	2,000円	1,800円
高校生・大学生	1,500円	1,300円
小学生・中学生	1,000円	800円

※団体は20名以上。

※未就学児、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料。

※大学生・高校生・中学生の方は学生証をご提示ください。

※大阪市内在住の65歳以上の方も有料です。



横造 螺鈿箱（らでんのはこ）

東京会場

展覧会名：正倉院 THE SHOW ー感じる。いま、ここにある奇跡ー

会場：上野の森美術館（東京都台東区）

会期：2025年9月20日（土）～11月9日（日）※休館日はありません

開館時間：午前10時～午後5時（入館は閉館の30分前まで）

主催：上野の森美術館、「正倉院 THE SHOW」実行委員会
（読売テレビ、読売新聞社、TOPPAN、角川メディアハウス）、
日本テレビ放送網、BS日テレ

監修：宮内庁正倉院事務所

観覧料	前売り	当日
大人	2,100円	2,300円
高校生・大学生	1,500円	1,700円
小学生・中学生	900円	1,100円

※未就学児は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方と介護者1名までは
当日料金の半額になります。

※大学生・高校生・中学生の方は学生証をご提示ください。

※前売りは8月初旬に開始予定。詳細は決まり次第
公式ウェブサイト等でお知らせします。



公式ウェブサイト：



<https://shosoin-the-show.jp>



THESHOW1814315



※展示内容、会期等は、今後の諸事情により変更する場合があります。詳細は公式ウェブサイト等でご確認ください。

報道関係お問合せ

「正倉院 THE SHOW」広報事務局（株式会社OHANA内）

Email：shosoin-the-show@ohanapr.co.jp TEL：03-6869-7881 FAX：03-6869-7801

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル5F